

競技振興 ビジネスの視点

びわこ成蹊スポーツ大・大河正明学長

びわこ成蹊スポーツ大(大津市)の新学長に10月、大河正明・副学長(63)が就任した。大手銀行出身で、サッカーJリーグ常務理事やバスケットボールBリーグチエマンを務めた人物だ。東京オリンピック・パラリンピックで経験した危機感を背景に「西の早稲田」を目指すという。スポーツビジネスの光と影を知り尽くした大河さんに、その真意を聞いた。

【聞き手・山口一朗】



大河正明学長 一同大学提供

— 就任の経緯は。

本来なら2019年のラグビーワールドカップ(W杯)の成功に続き、20年に東京オリパラ、21年に関西ワールドマスターズゲームズと3年連続で世界クラスの大会が日本で開かれるはずだった。だが、新型コロナウイルスの感染拡大で、オリパラと関西マスターズが延期になった。大会が近づくと、五輪を語ることも自体がマイナスイメージになった。

さらに、学校の部活動を見ると競技人口が減っている。「する」「みる」「支える」というスポーツの各分野で、「する」が非常に逆風になっ

目指せ「西の早稲田」

たのは確かだ。そういう中で、学校運営に素人の私が学長を引き受けて大丈夫か、という気持ちがあったと言えはう。そになるが、やる以上は経営サイドの発想を入れ、大学と向き合おうと考えた。

学長として10の改革を掲げた。スポーツ界の未来を担う人材育成のため、競技力、教養力、研究力、地域貢献力、発信力の強化に本気で取り組む。また、国際的に通用する新たな日本のスポーツ文化を創造する大学を目指し、ビジネス、国際交流、自然スポーツ、データサイエンス、最新設備と環境にも注力する。

— 具体的には。



学生と話す大河学長(右) 大津市のびわこ成蹊スポーツ大で1日(同大学提供)

びわこ成蹊スポーツ大 大津市に2003年4月開学。「我が国の閉鎖的な体育思考から脱却した、国際的に通用する新しいスポーツ文化を創造すること」を理念とし、日本で初めて「スポーツ」を大学名に冠した。スポーツ学部スポーツ学科と大学院スポーツ学研究所があり、卒業生は約4100人。

一番は競技力だ。びわこ成蹊スポーツ大はサッカーでは関西で優勝するなどそれなりの実力はあるが、他はそれほど強くない。競技力アップのためには、指導者とトップレベルのチームとの連携が重要だと思う。15年10月にはバスケットボールの滋賀レイクス、タースの協力を取り付け、21年6月にはサッカーJ1のセレッソ大阪、10月からはパレールVリーグ女子の久光スプリングスとも相次いで提

携した。 — データサイエンスにも着目している。

競技力と並ぶのが教育力。系列の大阪成蹊大に23年度データサイエンス学部ができる予定だ。両大学で連携し、全学生にAI(人工知能)やデータサイエンスを学ばせたい。データサイエンスはスポーツと相性がいい。成績や戦術、戦略を統計的に分析していく。

コロナ禍で「する」スポーツにかんがりの逆風が吹いているが、スポーツを支える側、つまりマネジメントする方や、分析アナリストの需要は落ちていない。だから、スポーツのデータサイエンスや私の専門のスポーツビジネスはしっかりと展開し、他の大学にはない特色あるプログラムを打ち出したい。

— 地域貢献とビジネスの展開は。

「びわこスポーツプログラム」という事業がある。大学生を訓練しながら、スポーツ指導に行かせる。オンラインを併用して滋賀県内に展開しており、もっと広めたい。中学を中心に部活動を外部委託するようになったので、大学で部活動をしている学生たちにコーチ資格取得に挑ませ、サッカーのC級ライセンスを取った大学生が関わるなど、地域貢献力を発揮したい。

起業家精神を持った学生を育てたい。起業家たちをゲストと呼び、スポーツビジネスをスタートさせる。学校の部活動を肩代わりするNPO法人を起業してもいい。

大河正明(おおかわ・まさあき) 1958年、京都市生まれ。京都大学法学部卒。三菱銀行(現三菱UFJ銀行)を経て、2010年にサッカーJリーグに転職、常務理事などを務めた。15年5月に日本バスケットボール協会(JBA)の事務総長に就任し、川淵三郎氏らと改革に着手。長年分裂状態にあった男子2リーグを統一してBリーグを創設、チエママンに就任。20年7月から、びわこ成蹊スポーツ大副学長兼大阪成蹊大スポーツイノベーション研究所長。21年10月、びわこ成蹊スポーツ大の第5代学長に就任。

計12年ほどJリーグとBリーグにいた。スポーツ界トップの複数リーグの役員を常勤でやった人は、僕しかないと思う。JとBを合わせると100ほどのチームがあり、各地で地域に根ざしている。僕は全部に足を運び、社長も含めて何度も話した。Jリーグの場合、人気の「バブル」がはじけ、そこからどう復活したのか。分裂していた二つのリーグを統合してBリーグにしたことは、ある意味ベンチャーの設立だった。

今後、社会人対象にスポーツビジネス系の修士号が取れる大学院夜間コースを設けられないかと考えている。大阪市東淀川区の大阪成蹊大キャンパスに「びわこ」のサテライトを置くことも検討可能だ。そして、総力を挙げて「西の早稲田」のような大学にしたい。

NEWS FLASH
全誌付見しハハ務 志せ対加制高
リに的声が 諸拡脳中。参】 中のが婦。い のと待予て。